おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和6(2024)年
1月号
通巻641号
毎月23日発行
(題字　矢追日聖)

★発行日　令和6年1月23日
★発行所　大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印　刷　大倭印刷株式会社
★定　価　1部　300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替　01050-6-67002
大倭出版局
URL http://www.ohyamato.jp

奈良県生駒郡平群町椣原地区の「勧請綱掛け」　一圓正美さん撮影（文・４頁）

新年号特集アンケート

年の始めに思うこと　～令和６(２０２４)年を迎えて

今年もよろしくお願いします

五十音順

人が集い、出会い、つながりが生まれる場所として

大阪　青山哲也
NPO法人むすびの家理事長
(FIWC関西委員会)

交流(むすび)の家は建設運動が始まって六十年となりました。交流の家は紫陽花邑にありますが、皆様のなかには交流の家や、交流の家を拠点に活動しているフレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関西委員会の活動についてご存じない方もおられると思いますので、昨年の活動を報告したいと思います。

春に東大阪でハンセン病がテーマのドキュメンタリー映画「NAGASHIMA～〝かくり〟の証言～」の上映会を開催し、夏には広島へのスタディツアーと交流の家での子どもキャンプを実施しました。また、秋には二日間のフェスティバルとして「笹の墓標展示館巡回展」と「交流の家コンサート」、冬には全国からワークキャンプの仲間が集まって交流する年末キャンプを行いました。

広島のスタディツアーでは、原爆の被害にあった広島で、住まいを失った人々の家の再建に取り組んだアメリカ人のクエーカー教徒（キリスト教フレンド派）、フロイド・シュモーさんの活動を学びました。シュモーさんの信条は「平和は『言う』ことではない、『行う』ことである」「平和運動は、私たちの手でできる、小さな実践から始めなければならない」でした。

現在、世界では戦争や紛争が続き、人々を苦しめる困難が絶えません。私たちはこれまでもそうであったように、これからもワークキャンプという実践を重ね、「よりよき社会」が小さな場所であっても実現するように歩みを進めていきたいと考えています。交流の家は、紫陽花邑の一員として、人が集い、出会い、つながりが生まれる場所として、これからも役割を果たしていきたいと思います。

神のまにまに

大阪　大倉　有宏　僧侶

先日の日聖祭で、法主の昔のご法話にて「今年は辰年だから激しく動く云々」とお聞きしたばかり。元旦から能登震災があり大変な幕開けですね。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

ここ数年、コロナ、戦争、震災など、世が乱れております。物理的な方面のこともそうですが、何より人々の内面がますます荒んでいるように感じます。

法主は黎明訪れたる昭和に、来たるべき世の出発者としてご出現された訳ですが、ご著作を見ていると、度々「わしが死んだあとからが本番」「第二弾、三弾と使命の者が続く」と仰っているとお見受けします。私は奇しくも、法主ほどの上級の精神分裂症（笑）ではないにせよ、気狂いか真実か幼少期に数々の霊示を受け、釈迦とキリストが現れ「諸宗教・科学の統合的視座の理屈をこの時代に示すのが汝の使命である。衆生は今、反抗期である。故に衆生に納得させられるように、汝を今から疑いの心にする。今日から誰よりも自分と宗教を疑い闘い抜いてこい」等と告げられてしまい、今日まで歩んできたものです。

昨年一年は、特に学びが総集結してくるような年で、大神神社（おおかみじんじゃ）で霊光が動画に映ったりもしました。理論もほとんど完成してきました。また失敗も沢山し、学びがありました。

黎明と言わず、さらに朝が明けてきていると思っております。日が昇る近い時へ向けて、今年一年より一層日々反省、感謝しながら、神ながらの道を味わい歩まんと気を引き締める思いです。

本当は大倭で何かしら、お掃除でも何でもご奉仕したい気に満ちてきているのですが、時来るとき使命に応じて、神のまにまに。

奈母太加天腹　沙門　圓寂　拝

バトンをつないでいく

あじさい邑　杉本　朝順（ともより）　大倭殖産株式会社

毎年お正月になると、今年こそは新しく何か始めようと思うのですが、日常に流され、年末に来年こそはと誓うルーティンが出来上がっています。そんな怠惰な私ですが、令和2年10月より大倭殖産5代目の代表取締役を任され、3年が経過いたしました。あじさい邑の皆様をはじめ、当社に関わってくださった全ての方々に心より御礼申し上げます。

実は幼少期より、邑の特殊な環境が嫌で嫌で仕方なく、自分のことを誰も知らない環境で生きてみたいと大学受験を機会に東京へ進学しました。大学時代は何事も新鮮で、電波少年というTVの企画で妻と出会いました。講義やバイトで毎日が忙しく、気づけば就職活動の時期でしたが、社員数35名の障害者採用支援を行う中小企業に就職できました。余裕があった大学生活とは異なり、社会人2ヵ月目に過労で入院してしまうほどブラックな環境でしたが、労働時間に比例した実務能力が身につきました。同時に、銀座・六本木などの歓楽街に連れ出され、世の中の裏側も知ることができました。表向きは社員の幸せを一番に考えると言いながら、実際は使い捨ての駒のように酷使し、裏では利己的な言動を繰り返す経営者に疑問を感じ、約5年で退職しました。

その後、大倭病院で約11年間お世話になり、現在へとつながっていきます。病院時代を含めると15年ほど矢追（家麻呂）会長とお仕事させて頂いていますが、常に社員を想い、労わり、大切にされる「責任者としてあるべき姿」を体現されています。53年続いてきた殖産の代表は大変な重責ですが、法（主）さん、柴地さん、盛賢さん、会長から受け取ったバトンを未来につないでいくことが使命だと感じています。若輩者ですが、これからも大倭グループ弥栄のために尽力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

良き社会のための経済

東京　永（ながか）仮（かり）　まゆり　東方通信社

私事になりますが、私は三十代半ばくらいまで「お金」を忌み嫌うような感覚を持ちつづけてきました。思春期から大学時代にかけ、実家に億単位の借金があったことが大きな理由だと思います。バブル経済、富裕層、成り上がり……時代の言葉も相まって、私のなかで負の感覚が蓄積していきました。

ところがある日、ネットで偶然これまでの観念を覆す言葉に遭遇しました。中村天風の文章のなかに見つけた「経済はつまるところ道徳である」という一文です。スッと新鮮な感覚が自分のなかに流れてきたのを覚えています。後に、二宮尊徳

の「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である」という言葉、渋沢栄一が「道徳経済合一」を唱えるなど、経済と道徳を結ぶ思想があることを知りました。

私は今、縁あって地域経済、島の産業を育てることをテーマにした雑誌の出版社に勤めています。個人事業者や中小企業を中心に、地域経済を支える人たちへの取材を通して、私自身が多くを学んでいます。

そんな日々のなか、年の初めに起こった令和六年能登半島地震。実はわが社では、編集長が長年自費で能登に通いつめ、輪島塗のPRや移動販売車を用いた買い物難民の支援など、能登の地域振興に力を注いできました。今回の地震による火災で、輪島朝市の入り口にあった能登支社が全焼。現在、次号の雑誌の校了作業と並行しながら、編集長、映像班が現地入りを検討している状況です。

今年一月の「おおやまとカレンダー」右タテ柱に書かれた言葉は、「地球が生命体であることを忘れては、人類の安定はありえない」。地震を予言するような箴言にハッとした方も多いのではないでしょうか。

大倭の教えを礎に、良き社会のための経済を私なりに考え、実践していきたいと思います。

古代の日本から学びを得る

あじさい邑　中島　武宣（たけのぶ）
大倭印刷株式会社

約10年間、奈良県中小企業家同友会の歴史のツアーを運営しています。２０１４年に私が実行委員長としてスタートし、今では毎年実行委員長を決めて開催。歴史に関心のあるメンバーが集まっています。毎年、11月3日（祝）文化の日を固定日として、大型バス1台のツアーで、テーマとしては古代の奈良、古事記の時代を多く取り上げています。

２０２３年には私が9年ぶりに実行委員長になり御所市で開催。全国から仲間が集まり、加茂一族ゆかりの神社仏閣に行って宮司のお話を聞いたり、出雲と御所のコラボした内容でとても盛況でした。

私は歴史は全く知識がありませんでしたが、奈良で長年仕事をしていると、歴史に詳しい人に出会う機会が多々あります。そういう人の話には何か本質的なこと、日本の原点のようなものがあると感じていました。

そんな日々の中、知り合いの経営者仲間が古事記を学び始めた頃とタイミングが合い、２０１４年、歴史ツアーを始めるに至りました。ツアーの中身は、奈良検定ソムリエ級の人たちが深掘りして作り込んで、毎回マニアックな濃い内容になっています。テーマの軸が古事記ですので、長髄彦の名前も出てきますが、人に長髄彦のことを聞かれても、断片的に私が聞きかじっていることを伝えることしかできていません。

長年この活動に取り組んでいると、「自分は何のためにやっているのだろう?」と振り返ったとき、「自分のルーツ探し」をしているのかもしれないと思うようになりました。他のメンバーからも同じような感想を聞いたのを覚えています。

出雲の女性経営者が以下の①②を言っていました。①歴史学者トインビーの発言ともされている言葉「13歳までに自国の神話を学ばない民族は必ず滅びる」②海外でビジネスをしている経営者が外国人に日本のルーツのことを聞かれて答えられず、恥ずかしい思いをして、古事記を学び始める者が増えている。このことからも、日本人に歴史のルーツを探す思考が増えていると思います。

法主さんがおっしゃっていた言葉で私が幼少期に聞いた、「世界の中心は日本にあり、日本の中心は大倭にあり」は、当時は「ホントかな?」と思っていましたが、今は「そうなのかもしれない」というアンテナを持ちながら日々過ごしています。

創業１００年の事業を継ぐ

奈良　中西　聖祥（たかよし）
株式会社祥碩堂

さて、私事ではありますが、昨年末に約5年に渡り、計画をしておりました新社屋が無事に完成し、創業からちょうど１００年の節目の年に花を飾ることができました。

私の曽祖父から続いてきたこの会社は、祖父、父へとバトンが繋がれ、そして次の世代の私へと引き継がれようとしています。そして、この新社屋完成とともに、慣れ親しんだ実家、兼、工場のある土地を手放し、今年から新しい土地、新しい社屋で新たな決意を持って歩み出します。

先祖代々、どのような思いを持ってその時代を生きてきたのかを知るすべはありませんが、少なくとも祖父母や父・母が、個を犠牲にしながらも事業拡大の為に、尽力してくれた事、徳を積み重ねてくれたことが、今を生きる私達家族が不自由なく生活ができていることに繋がっているのだと感謝をしております。

祖父（※初代大倭会会長の中西正和さん）が生前に戦時中の話をしてくれたことを覚えています。戦時中、本当に貧しく、皆が食べる物が無くて苦しい環境である中、ある日食事に出てきた白湯を覗き込むと、当時は貴重な卵の黄身が入っていたそうです。「ご馳走が出た」と喜んで食べようとした時、良く見るとそれは卵の黄身ではなく、白湯に映った自分の目だったそうです。

そういった過酷な環境の時代が存在し、それでも苦難を乗り越えて戦後の復興に励み、今の時代を作ってくれた先人に感謝の気持ちを持つことが必要なのだと思います。家督を継ぐものとしての責務を全うし、先祖を祀り、親を大事にし、そして次の世代を生きる子ども達にバトンを繋げていけるよう、今まで以上に日々精進してまいりたいと思います。

今年も新たなご縁がありますように。

更なる挑戦の年に

奈良　矢追法亮（のりあき）
社会福祉法人大倭滝の峯荘

このたび『おおやまと』紙より、新年を迎え「年の始めに思うこと」とのお題をいただきまして、頭に浮かんだのは昨年のことでした。昨年はおそらく人生の中で大きな変革の年となりました。新しく挑戦することが数多くあり、今まで出会うことのなかった方々と多くのご縁をいただきました。昔から新しく挑戦するチャンスがあればよほどのことがないかぎり断らないことに決めています。12月には42歳となりました。歳を重ねるごとに時間の大切さが身に染みます。

そんな中、仕事も大切にしていますが家族との時間を今はなによりも大切にしています。長女は今年の春、富雄南小学校の小学4年生、長男は同校の小学2年生になります。子供達の成長はなにより嬉しく、いつまで私と遊んでくれるかはわかりませんが共に過ごせる限りある時間を精一杯楽しんでいます。

仕事では前述したとおり、新しく挑戦することが多く悩みも多かったのですが、大倭の先輩方をはじめ、優しく手を差し伸べて下さる多くの方々に畏敬の念を抱きつつ将来、私もそうありたいと強く決意した1年となりました。

大倭印刷の青山法義さんのご縁によって昨年4月より、明昌先輩も所属しておられた消防団に入団させていただいた時には、明昌先輩から激励のお言葉があり、とても感激したことを昨日のことのようにおぼえています。今年も更なる挑戦が多くありますが、一度きりの人生を一歩一歩、楽しみながら歩んでいきたいと思います。

今までの流れを大切に

あじさい邑　矢追明昌（はるまさ）
社会福祉法人大倭安宿苑（あすかえん）

いきなりですが昭和40年生まれの私は今年59歳になります。いや、ならせていただきます、でしょうか。

子供の頃は、宿題嫌やし自転車ではなく車とかに乗って遠出したいとかで、はやく大人になりたいと思っていましたが、今や大人と言うより昭和の香り満載のええオジンとなり、還暦にリーチの状況です（インターネットで還暦を検索すると、甲乙などの十干と子丑などの十二支の組み合わせが生まれたときと同じ暦に還る〈赤ちゃんに還る〉。本来の時期は数えで61歳の年らしいですがそれは横に置いておきます）。小学校の時にベストセラーになった本『ノストラダムスの大予言』の中で1999年7月に人類は滅亡するというような記述があり、幼心にごく自然にその頃の自分は30歳そこそこ迄の人生なのだろうかなんて漠然と思っていました。

高校、大学と人並み以上の教育を受けさせてもらい法主さんに福祉をせよと直接言われた記憶は残っていないながら、今ではその大予言が外れたおかげもあり大倭紫陽花邑の大倭安宿苑で社会福祉に携わらせてもらっています。なんだかスマップの『夜空ノムコウ』という名曲の歌詞に出てくる「あの頃の未来に僕らは立っているのかな」というフレーズが頭の中で響いていますが、昔のその頃には想像ができなかった、たくさんの上手くいかないことが次々と起こっています。

光明皇后さんゆかりの土地での福祉事業なのになんだかなぁとつい人間心で思ってしまうものの、それらは周りのいろいろな方々のご助力などにより、曲りなりにも上手くいく方に向かっていくことが多く有難いことと感じています。

暦ではもうすぐ赤ちゃんに還ることになっているにもかかわらず、そんなこんなは大人の事情ばかりでいうなれば進暦、還るのではなく進み続けるためのチェックポイントに近づく年が明けました。今までの流れを大切にしつつ（自分としては間違っていない方向と思います）、進み続けていくために変えていく必要のあることは変えるなどちょっとだけイケオジンな令和6年にできれば良いなと思います。皆様からのご指導ご鞭撻もいただきつつ本年もどうぞよろしくお願いします。

表紙写真について

毎日新聞（奈良版）で、たまたま山本栄二さんの名前が目に入りました。大倭安宿苑の元職員で、平成6年9月号「寸莎」の第15回にご登場いただいたこともある方です。

平群町椣原（しでばら）地区で1000年以上続く伝統行事「勧請綱掛け（かんじょうなわかけ）」の保存会代表だという。

記事によると、《地域に悪霊や疫病が入り込まないよう、わらで作った雄綱（長さ27m）と雌綱（同12m）を川に掛け》るとのこと。綱作りには他地域からも参加できるらしい。

山本さんとのご縁のお陰で、新年号の表紙写真にさせてもらえることになりました。（編集部）

「神通力如是（じんずうりきにょぜ）」の真意をさぐる　第二十九回

大倭教の源流にさかのぼって

今回の「神通力如是」では、倭姫と天津皇祖が登場して神語りを行います。なかなか理解が難しく誤解を生みやすい箇所もありますので、いつものような註釈だけでなく、主に法主の著作から引用する形で解説を試みることにしました。

原文

十一月二十二日、朝八時半、於鳥見庄山

倭姫、挨拶、神楽、妙法、妙法、妙法…

「君ケ代ハ千代ニ八千代ニ寿キテ、竹ノ園生ノ色マシテ九重オクゾ榮エ行ク、吾ガ日本ノ皇孫ノ御血筋、幾千歳ノ後マデモ、代代其ノ光色マシテ代々永久ニ榮エ行ク。

今我ガ日本ハ三方ヨリノ悪魔ニ攻メラレ、イカヤウスル事能ハズ。汝臣民ヨク承レ、畏クモ一天萬乗ノ大君御心イタク悩マセラレテ候ゾ。君ノ為ニ盡スガ真ノ道。㊀今ニ見ヨ、天上ヨリ変化ノ人ヲ遣ハシテ神自カラ大禊アソバスゾヨ、コレ即チ空襲ナリ。悪魔ニミ入レラレシ臣民ハ神ノ言葉ガ耳ニ入ラズ我慾ニ堕チ、ア、不憫ナル者ゾ。一億民モ居レド真ノ妙法唱ヘル者數尠シ。真ノ妙法唱ヘルモノゾヨク聞ケ、タトヘ數尠クアロウトモ諸天善神加護スレバ其力幾百萬倍カハカリ知レズ、一心ニ妙法真ノ題目唱ヘラレヨ。我ガ日本ヲ救フ為、一天萬乗ノ大君ヲ安ンジ奉ル為」題目、倭姫挨拶。

仝日、正午、倭姫、神楽歌。

「君ケ代ハ千代ニ八千代ニ色マシテ、竹ノ園生ノオン榮エ、代々永久ニ変ラジナ、代々永久ニ変ラジナ。

㊁大八洲嶋秋津島根ノ日本ハ、天津皇祖（ミオヤ）御神勅（ミコトノリ）、我ガ皇孫ニ宣ヒテ、①三種ノ寶サズケ玉ヒテ高千穂ノ峯ヘト天降シ玉フ。ア、メデタヤナ、メデタヤナ」

十一月二十三日、新嘗祭、朝六時半、於鳥見庄山、太陽ヲ拝セル時。

「天津皇祖（天照太神）

我レ題目ノ供養ニヨリ、一時モ早ウ出タケレド、雲悪魔トナリテ邪魔立テ致シ中々出デラレズ、ヤウ〳〵ノ事ナリ。此レ何ヲ物語ラン。今日本ヲ物語ツテイルゾヨ。真ノ正法妙法トナヘ、コノ悪魔取リ除カム。

雲開キ、我レ世ニ出ズル其時ハ、諸天善神歓喜シテ、我ガ日本ハ安ラケク、真ノ正法立ツ時ゾ。我ガ皇孫ノ大稜威、八紘一宇ニ耀キテ、大倭日高見国ガ生レ出ズル時ゾカシ。

我ガ日本ハ安ラケク、竹ノ園生ノ弥栄エ、大内山ニ色ハエテ、君ノヨハヒヲ幾千歳ノ後マデト、八百萬余ノ神等ガ、寿ギ奉ル事ゾカシ。ア、メデタヤナ、メデタヤナ。

大海原（ワタツミ）ノ千波萬波ニ輝ケル、朝日ノ光、日ノ本ノスメラミイズノ光ナリ。ア、有難キ其ノ光リ、八紘一宇ニ及ブナリ。ア、有難キ極カナ」

「天津皇祖」

㊂「日、米、会戦、聖寿万歳、戦勝、瑞兆」

右東天の瑞雲の前に字にて現はれたり、日米戦争近からん。

屋内ニテ

「君ノヨハヒハ鶴亀ノ、庭ノ松ノ緑ニ色ハエテ、幾千歳ノ後マデモ、イトメデタキ極カナ。

君ケ代ハ千代ニ八千代ニ色マシテ竹ノ園生ノオン榮エ代々永久ニ変ラジナ、代々永久ニ変ラジナ。
君ケ代ハ千代ニ八千代ニ寿ギテ、我ガ皇孫ノ大稜威、世世永久ニ榮エ行ク。ア、メデタヤナ、メデタヤナ」

註　釈

①三種の寶（三種類の神器のこと）

さんじゅ（三種）「さんしゅ」とも。皇位のしるしとして、代々の天皇が継承する三つの宝物。八咫の鏡、天の叢雲の剣（草薙の剣）、八尺瓊曲玉の称。（福武書店『古語辞典』による）

今回の内容について

今回の原文に違和感を持たれる方もあると思い、私共（三人の会）の解説を添えることにしました。解答にはならないかもしれませんが、あるいは皆様の理解のよすがにはなり得るかもしれません。なお解説にあたっては、その多くを法主の著作の中から選ぶことを主としました。

㈠「今ニ見ヨ、天上ヨリ変化ノ人ヲ遣ハシテ神自カラ大禊アソバスゾヨ、コレ即チ空襲ナリ」

この語りの意味する所を次の部分から。

《世には生まれ変わりということがよく言われているが、過去に亡くなった人がそのまま生まれ変わるということはない。あくまでも亡くなった人の霊魂は厳然と霊界に存在しているのである。だが今の日本の社会の権力者や指導階級の座にある多くの人々の中には、平安時代の源平両族から始まって、戦国時代に至る各武将やこれに類する人達の殆ど鎮魂浄化しないままの気を受け継いでいる人が多くいる。闘争に明け暮れ、魂魄この世に残して他界した者は、死後の世界においても争いの連続である。霊界の司は人間界においてそうした心を浄化させる親心をもってこの世に出てくることを許したのであるが、ひとたび誰かの肉体に宿れば、この甚深微妙な親心をすっかり忘れて、再び過去世の悪因縁を繰り返そうと努めるようになる。こうした想念が太平洋戦争にまで拡大したのも自然の成り行きである。ついに敗戦という浄化剤を神から賜った。》

（『やわらぎの黙示』１７５頁より）

㈡「大八洲嶋秋津島根ノ日本ハ、天津皇祖御神勅、我ガ皇孫ニ宣ヒテ、三種ノ寶サズケ玉ヒテ高千穂ノ峯ヘト天降シ玉フ。ア、メデタヤナ、メデタヤナ」

《古代大倭地方（近畿）の各地に存在した「すめらみこと」の最高位に在った者は、歴代長曽根邑（鳥見）を都とし、ここに君臨していた天孫族の「すめらみこと」にして「長曽根日子命」といった。『先代旧事本紀』には「天祖は、天璽瑞宝十種を以て、饒速日尊に授く。則ちこの尊は天神の御祖の詔を稟け、天磐船に乗りて、河内国の河上の哮峰に天降り坐し、則ち大倭国の鳥見の白庭山に遷り坐す」と記されている如く、上代の人は、長曽根邑の歴代の「すめらみこと」は天孫饒速日命の系統であったと信じていたことが窺われる。

一方高千穂地方の歴代の「すめらみこと」も同じく天祖から三種の神宝と御祖の詔を稟けて天降った天孫瓊瓊杵尊の子孫であると紀には伝えている。

記録にある「天降」は高い所から低い所へ流れ移る意味を指すのが広義の解釈であるようだが、この場合は霊界から命もちて人間界に誕生することを指している。誕生（天降）した地方には古くからの住人のあったことは想像できるが、民族学的な見方では大倭、九州両地方の人達が同種民族であったかどうかの裏付けとなる科学的資料は乏しいと思うのである。然し私は同じ霊統の霊界人が、大倭や九州において「すめらみこと」としての使命を果たせるような当時の社会的な座に在る家系の中に降誕するものと観ている。それを記紀には霊界の実相をとらえて、饒速日命とか瓊瓊杵尊と記されたものと思う。》

（『やわらぎの黙示』１３０～１３１頁より）

この中で法主は、つまりは天津皇祖にとっては地域を別にするこの二つの集団（大倭・高千穂）が、霊統的には同族であることを語っています。

そしてこの二つの集団はヤマトの地で激突した後、和の光の出現によって和することになります。私共にとってはこの理解しがたい経緯の意味は、次の文章にその謎解きが語られています。

《倭は親許の意、宇宙創成の気は万物一切の大親元（大倭）である。この神ながらの原理は万物一切に存在している。

大きくは大宇宙から小さくは人間個人の中に実在している。人間の「おやもと」は両性の陽物陰物（生殖器）に存するが、この相対は間断なく一体的の働きがある。相対の気が満ちて一体となるとき神ながらの動きが生じて、やがて陰性の胎内に新しき生命体が宿りこの世に生まれ出る。

この理を前提として、話は少し大きく建国創業へと移ってゆく。

霊界は、高千穂は男性（父、タミ産霊）、大倭は女性（母、カミ産霊）の立場において大同融和の気が動きだした。陽性（高千穂）は陰性（大倭）に恋慕して行動を開始した。長い歳月を経て大倭に近づいた。生駒山の彼方（西）から恐る恐る気を伺って手を差し伸べた。だが、横腹から無断で這い上がることは神意に反すと大倭は強く肘鉄砲

をくらわした。驚いてあとずさりをした高千穂は足許（熊野灘）でつまづきながらも辛うじて大倭（北）の正面（南）に立ちふさがった。待ってましたとばかり大倭の興奮は高千穂をコテンコテンにあしらった。あたりは暗く見え氷雨を流した両者、気は正にその極に達したとき、光（金鵄）を放射して「和」の生命を大倭に宿した。高千穂は矢の働き、大倭は的の働き、これを一体とすれば「やまと」の言霊にもなる。

時代の流れはこの波紋を更に大きく画き、世界的にみれば日本国が大倭の立場になりつつ、今日の日本国にまで進展してきたことを示して結ばれた。》（『やわらぎの黙示』１４０～１４１頁より）

三「日、米、会戦、聖寿万歳、戦勝、瑞兆」

この中の「戦勝」とは日本が米国に戦争で勝利することではなく、日米の戦いによって天津皇祖出現の邪魔だてをする悪魔を取り除くことが出来ることです。つまりは、日本は現界での敗戦によって、昭和天皇を取り巻く軍人、側近等の悪魔を払う大みそぎを行い、和の光の出現によって新しい真の妙法（かんながらの大法）を立てることが出来たのです。又、悪魔とは歴史的に積み重なった悪因縁が生み成した悪しき想念の現れともいえます。

現代語訳

11月22日　朝８時半　鳥見庄山において

倭姫、挨拶　神楽　妙法、妙法、妙法……。

倭姫「スメラミコト(天皇)の世はいつまでもめでたく栄え、大倭鵄杜の竹の園生は増々色濃く、大倭の神々の皇居は栄えていきます。私達日本のスメラミコトの御血筋は何千年もの後までも、代々その光の色を増して代々永久に栄えていきます。

今私達の日本は三方からの悪魔に攻められてどうすることも出来ません。あなた達臣民よ、よくお聞きなさい。畏くも一天万乗の天皇は、その御心をひどく悩まされているのですよ。その天皇に尽くすのが真実の道です。今に見ていなさい、タカマノハラ(大倭霊界)から身を変えた使命の者を遣わして、大神自らが大禊を行われます。それがつまり空襲なのです。悪魔に魅入られてしまった臣民は大神の言葉が耳に入らず我欲に堕ちています。

あぁ気の毒な者達よ、一億の民がいるにもかかわらず真の妙法を唱える者は数少ないのです。

真の妙法を唱える者よ、よく聞きなさい。たとえ数が少なくあろうとも諸天善神が加護すれば、その力は幾百万倍になるか計りようもないのです。ただひたすらに妙法である真の題目を唱えなさい。

私共の日本を救う為、一天万乗の大君である天皇に安心していただける為に」題目、倭姫、挨拶。

同日　正午　倭姫　神楽歌

倭姫「天皇の代はいついつまでも増々竹林の色が映えるような大倭鵄杜の弥栄は代々永久に変わりはありません。永久に変わりはありません。

多くの島々によって成り立っている日本では天津皇祖であるクシイナダ姫命が御神勅をされ、御自分の子孫である天皇に申し付けられ、三種の御宝をお授けになり高千穂の峰へ（霊界から現界へと）お降しになられました。あぁめでたいことです、めでたいことです」

11月23日　新嘗祭　朝６時半　鳥見庄山において

太陽を拝せる時「天津皇祖（天照太神）【宇宙神・クシイナダ姫】

天津皇祖「私は題目の供養によって、少しでも早く世に出たいが、雲が悪魔となって邪魔立てするのでなかなか出ることができません。これは何を物語っているのでしょうか。（すなわち）今の日本の有り様を物語っているのです。真の正法、妙法を唱え、この悪魔を取り除きましょう。

雲を開き私が世に出る時には、諸天善神が歓喜して、私共の日本は安泰となり、真の正法が立つ時となります。私共の皇孫（歴代天皇）の御威光はめでたく輝いて、日高見の国が生まれ出る時となります。

私共の日本は安穏に竹の園生はめでたく栄え皇居に色映えて、天皇のご寿命が幾千代の後まで続くように、数多くの諸天善神がお祝い申し上げることでしょう。あぁめでたいことです。めでたいことです。

大海原の千波万波と輝く朝日の光は日本の天皇の恩寵の光です。あぁありがたいその光は全世界におよんでいます。あぁありがたい極みです」

「天津皇祖」

「日、米、会戦、聖寿万歳、戦勝、瑞兆」

右が東天の瑞雲の前に字にて現れる。日米戦争が間近なのだろう。

屋内にて

倭姫「天皇のご寿命は鶴や亀の齢のように、お庭の松の葉の緑に彩られ幾千年の後までも続き、本当にめでたい極みです。

天皇の代はいついつまでも増々竹林の色が映えるような大倭鵄杜の弥栄は代々永久に変わりはしません。永久に変わりはしません。

天皇の代はいついつまでもめでたく続き、私共の天皇の子孫の方々の御威光は代々永久に栄えて行きます。あぁめでたいことです。めでたいことです」

あじさい日誌

12月10日　午前8時から大倭墓地の大掃除。9時から紫陽花邑の大掃除。80人近くの方々が参加されました。

12月15日　大倭神宮月次祭。

12月20日　山﨑正知・波留茂夫妻により、大倭神宮・大本宮拝殿・大倭安宿苑の三ヶ所に門松が作られました。

12月23日　大倭八十年元旦（大倭私年号）。法主生誕百十二年。午後1時半から法主奥津城でご挨拶。拝殿に於て2時から日聖祭が行われました。

映像による昭和63年降誕祭法話（法主の帰幽後は日聖祭となる）。昭和63年1月号『おおやまと』の9～11頁に「生かされてあること」として掲載分。

矢追明昌大倭安宿苑常務、岸田哲大倭会会長の挨拶があり、あと太郎坊・次郎坊さん、成正坊さん、成謙坊さん、土師部の杜への四神参りへ。

12月24日　朝から昼頃まで大倭神宮の大掃除が行われました。

12月28日　久しぶりに静岡県の磯部将紀・智香子夫妻と尚五・凪佐さん一家が来邑。

12月31日　朝から邑の男子達が大倭神宮や大本宮拝殿の正月風のお供えを組みました。

夜11時55分頃から祓い清めの大太鼓が打ち鳴らされました。

1月1日　午後1時から法主奥津城でお参り、2時から大倭神宮の年始祭が行われました。

1月5日　午前11時から拝殿で、㈱大倭安宿苑、大倭印刷㈱、大倭殖産㈱、㈳大倭大本宮等の代表者による事始めの会。

1月6日　大倭神宮月次祭。

夜6時から大倭会館で邑人らによる食事会が行われました。

大倭安宿苑では

12月22日　奈良市社協他の被表彰者29名に感染症対策のため表彰式には参加せずに、法人から記念品を贈呈しました。

（菅原園）

1月2日　書初め会。思いついた言葉を、職員がサポートしながら筆を持って書きました。

（須加宮寮）

1月1日　大倭神宮の年始祭に合流して初詣をしました。

（長曽根寮）

12月25日（デイ）クリスマス会。1年間の思い出を手作り動画にしてプロジェクターで上映しました。

12月21・22・26日（特養）各フロアをクリスマス風に飾り、クリスマスソングで大盛り上がり。

（茂毛路園）

12月25日　引き続き感染予防に努めてのクリスマス会で、サンタに変装した職員がプレゼントをお渡ししました。

（八重垣園）

1月1日　お雑煮とおせち料理でお正月のお祝いをしました。

法主帰幽祭 ご案内

日時　令和6年2月9日(金曜日)

- 午後1時45分より法主様奥津城においてご挨拶をいたします。
- 午後2時より大本宮拝殿においてお参り後、平成5年1月1日大倭神宮での法話などの映像記録を見ていただき、その後教長さんのお言葉をいただきます。

密集・密接を避けるご配慮をどうぞよろしくお願いいたします。

宗教法人 大倭教

こだまことだま

京都市　池田宏子

『おおやまと』2022年10月号掲載の、法主様54歳の時の月次祭の法話「自分の心は自分が救う～弾力性のある心になる～」を何度読んだ事でしょう。

❖「自分一人がという小さい自我にとらわれて、風邪引いたゴムみたいな心になっている人間は、ちょっと変わったことが起こると、パンといくんです」

❖「人間個人の心の中には、この地球だけでなく大宇宙の、三千世界とか…略…無限大の世界でも、全部納められる。心というものは、それだけの広さを持っています。何億の人間でも、自分の心で包めるだけの広さがみんなある。…略…だから自分が、加美さんの心になれるはずなんです」

❖「物事を苦にしない。物事にとらわれない。誰とでも仲良くいける自分になれば、…略…自分を取り巻く周囲だって近づいてくる。そうなれば、自他共に幸せに暮らしていけるんです。だから、まず出発は自分の心の浄化を図る。それが宗教の目的やと思うんです」

❖「自分自身が浄化して、自分自身を向上さしていく。その方が物質的な欲よりも、もっと大きな欲なんです。そういう大欲を出してあんたたちが信仰してくれることを私は望むんです」

法主様のこれらの言葉を信じて歩んで行こうと思います。

同居している母とは、ちょっとした事で口論になってしまう私ですが、「物事を苦にしない。物事にとらわれない。誰とでも仲良くいける自分」になるという「大欲」を持って暮らして行きたいと思います。

あんない

＊玉緒祭（大本宮）

2月3日(土)　午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

玉緒祭は宇宙根本神霊と人間の本霊との結びを感謝するお祭り。玉は命を、緒はひもを言う。

＊月次祭（大倭神宮）

2月6日(火)　午後2時より大倭神宮にて。

＊法主帰幽祭

2月9日(金)　上欄参照。

＊大倭会主催禊会

2月11日(日)　午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

＊月次祭（大倭神宮）

2月15日(木)　午後2時より大倭神宮にて。

＊申孝祭と月次祭（大本宮）

2月23日(祝)　午後1時20分より大倭神宮にて申孝祭が、2時より大倭大本宮拝殿にて月次祭が行われます。

申孝祭は、神武天皇が行った祭政一致の故事、鳥見山中の霊時を記念するお祭りです。